

文藝春秋

の新刊

5月11日発売

1000円＋税

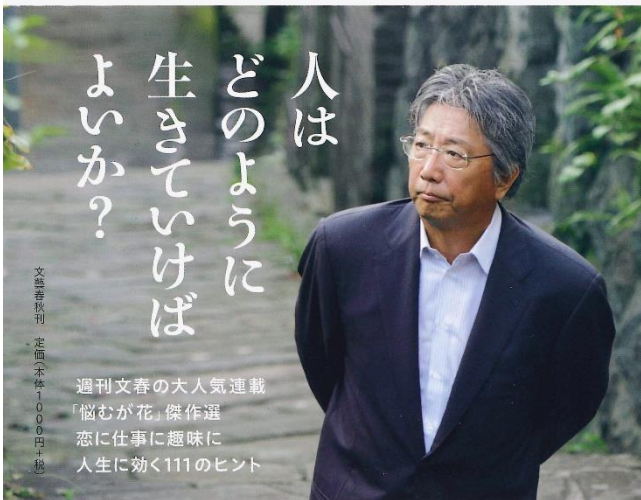
# 女と男の 絶妙な話。

## 伊集院静・著

女と男の

絶妙な話。

伊集院静



人は  
どのように  
生きていけば  
よいか？

週刊文春の大人気連載  
『悩むが花』傑作選  
恋に仕事に趣味に  
人生に効く111のヒント

私は、学問の基本は、最後は独りで拓いていくものだと思っています。どんな類いの学問にせよ、すべての人が学ぶ命題はひとつで、それは「人間はどのようにして生きていけばよいか」という一点です。学校の中で、それがすべて学べるはずがありません。もっと手っ取り早い方法を言えば、自分以外の人はどうやって生きているかを見る方がいい場合もある。だから昔から、若いうちにさまざまなものを見よ、若い時に旅をきなさい、と先人は言うのです。(本書より)

人はどのように生きていけばよいか？

すぐに役立つものはすぐに役立たなくなる  
失望も何かをくれるはず  
惚れて通えば情も通じる  
名人と呼ばれる人には共通点がある 他

ビートたけしさんや小泉純一郎元総理が、週刊文春を手にとったとき、一番最初に読むのが、伊集院静さんの「悩むが花」だそうです。数千の人生相談のなかから、よりすぐりの111の回答を掲載。手紙の書き方、スピーチのコツから、男女のあれこれまで名言苦言の数々。これを読めば、「男の流儀」もマスターできるかもしれません。

いじゅういん・しずか 1950(昭和25)年山口県防府市生まれ。立教大学文学部卒。『乳房』で吉川英治文学新人賞、『受け月』で直木賞、『機関車先生』で柴田錬三郎賞、『ごろごろ』で吉川英治文学賞、『ノボさん』で司馬遼太郎賞。2016年、紫綬褒章受章。主な著書に『日傘を差す女』『琥珀の夢』『患者よ、お前がいなくなって寂しくてたまらない』『イザベルに薔薇を』『東京クルージング』、エッセイ集に『文字に美はありや。』、「大人の流儀」シリーズなどがある

著者インタビューなどご相談ください。

【お問い合わせ先】プロモーション部 (電話)03-3288-6142 pr@bunshun.co.jp